

[4] 職業科における授業づくり

「働くことを学ぶ場」である職業科の学習では、作業を遂行する技能はもちろんのこと作業態度や意欲の向上を主としてねらっている。また、社会との関わりを意識させる中で、「自分も社会の一員であるという自覚や責任感を促す」という職業科ならではのねらいも持っている。教科の持つ性質上技能の習得を通しての態度育成が主となるが、働くうえで必要となる人との関わりに着目した授業の展開を考えたい。コース制を中心にして、次のような観点で職業科での授業づくりを試みた。

- いろいろな作業を通して、「働く生活を営む」うえで一人ひとりが抱えている課題を克服し、自信を持って進んで作業に取り組める態度や技能の育成をめざした授業

働く意識や態度や技能の育成をめざして、集中して作業に取り組めるような授業にしたい。また返事・質問や報告等の基本的な表現方法を把握して使えるようにさせるために、パターン化された表現の獲得もねらい、他と好ましく関わりながら作業が遂行できるような力を養っていききたい。

(教師の姿勢)

- ・「できないこと」が「できるようになった」という成就感を持たせることができるように、作業内容の質と量を常に吟味し、自分なりに見通しを持って活動しることができるような教材を準備する。
 - ・必要以上の声かけや賞賛は生徒の集中力を欠く要因となるので避ける。
 - ・失敗した時を指導の場として捉えて、「何が悪かったのか。どうすればよいのか。」を気づかせるように導き、自分を省みる場を意図的に設定する。自分の課題を認識して克服しようとする意欲や方法を学びとらせたい。
 - ・他とコミュニケーションを持たねばならないような場面を意図的に設定していく工夫をする。
- 社会との関わりを意識したり、作業の流れをつかんで自分の役割を認識して見通しを持って取り組めたりするような授業

目の前の作業をこなすだけでなく、全体の中の自分、社会の中の自分を意識させたい。大半の生徒たちが、他と会話したりふれ合うという経験をあまり持っていないので、自分と他との関係を意識したり調整していくことが苦手である。働くことを通して社会へ目を向ける機会を提供していきたい。

(教師の姿勢)

- ・作業工程やおおまかな流れを生徒によくわかるように提示し、作業全体への見通しを持たせる。
- ・社会との関わり（製品であること、流通の仕組み、納期、納品等）を作業工程の中に盛り込み、社会での「働く場」を常に意識させたり、自分の分担に責任を持たせる。
- ・一人完結型や流れ作業や分業等、いろいろな作業形態を経験させるが、どの形態の場合でも目の前の作業をこなせばよいのではなく、全体の流れを見て段取りをしながら作業をしていくことを要求する。

次ページより、コース制での実践事例の抜粋を紹介する。

〈印刷コースの実践〉

(1) 生徒の実態

1年3名、2年2名、3年1名の計6名で、うち男子4名女子2名で編成されている。

障害は、自閉的傾向2名、LD1名、結節性硬化症1名、精神発達遅滞2名であり、比較的障害が軽く理解力・実践力がある生徒から、指示が通りにくく自分本位の行動を取りがちな生徒までと多様である。6名のうち活版印刷の経験者は2名であり、1年3名、2年1名は初心者である。初心者の中では、1年のG男が理解力・実践力共に高く、作業に見通しを持って取り組んでいる。その他の生徒は、何が分からないのかが分からなかったり、質問の仕方が分からなかったり、質問の仕方は分かっても尋ねる勇気がなかったりする理由から、自分で勝手に間違った作業を進めていたりすることがあるといった実態である。受身的な態度が多い、指示の理解が出来ない、聞く態度・聞こうとする態度が出来ていない生徒が多く、コミュニケーションの能力が総じて低い生徒のグループであると言える。また、作業速度にもかなりの開きがあり、個に応じた指導を必要とする生徒が多い。

(2) ねらい

印刷工程（受注→文選→組版→印刷→校正→本印刷→解版→返し→包装→納品）を学習する過程や通知表・文集を製本する過程の中で、各工程の技術・好ましい作業態度・持続力・意欲等を身に付けさせることにより、〔労働〕を学び取ることをねらいとしている。中でも作業態度の面を重視して指導を行っているが、ただ黙々と作業をすることだけををねらうのではなく、作業中に必要な報告や質問など「働く」場面でのコミュニケーションの力を高めようとした。

また、全工程を一人でこなす経験をさせることにより、作業に見通しを持たせ、主体的に取り組もうとする態度の育成をねらった。

(3) 指導方針と手だて

① 作業に見通しを持たせる。

- ・印刷工程を一通り理解させるために、年度当初にミニ文集「ゆめ」を制作する過程を通して活版印刷の全工程を経験させる。
- ・外注物（名刺、はがき）教材を多く受け、納期を意識させ、決められた期間で作業を終えなければならない状況を認識させる。
- ・校内職業実習（年賀状印刷、学校文集印刷）では、各工程を分担して受け持たせるようにし、各工程の技能の向上を図ると共に、自分の役割に対する責任感も高めるようにする。

② 主体的な作業態度の育成

- ・主体性を育てるために、作業内容や全体目標を導入時に説明したり、必要に応じて個別に指示をする以外は、出来るだけ声かけをしないようにして、自分がすべきことを考えさせるようにする。

③ コミュニケーションの力の育成

- ・報告や質問などの方法や報告や質問をする習慣を身に付けさせるために、意図的にやりとりが必要な場面を多く設定する。

- ・学習時間の始めに目標を決め、終わりの会で目標について具体的に反省したことを発表させることにより、自分自身の課題を認識させる。

④ 協力しあう態度の育成

- ・分からないことや出来ないことがあったら、友達に助けを求めたりして、みんなで作品や製品を作り上げるようにさせる。
- ・初心者に対して、先輩が1対1の技術指導を行う。

(4) 実践例 年賀状印刷

- ① 期間 平成5年11月2日～12月17日（全71時間）……校内職業実習も含む
- ② 制作枚数 約5万枚
- ③ 作業内容 活版印刷—活字の拾い→組版→印刷→校正→本印刷→解版→活字の返し
渉外—注文取り、受付簿の記入、包装、請求書・領収書書き、納品
- ④ ねらい
 - ・外注物を請け負うことにより、正確さを要求される仕事への責任感を持たせる。
 - ・分担作業の中での自分と他との関わりについて認識する。
 - ・相手によく聞こえる声で、よく分かる言い方で質問や報告及び返事をする。

⑤ 年間指導計画

	4・5月	6月	7月	9月	10月
題材	印刷の工程を覚える、ミニ文集「ゆめ」の制作	「児童生徒名簿」の制作 名刺印刷	暑中見舞いの印刷	秋季運動会のプログラムづくり 表彰状の印刷	学習発表会のプログラムづくり
	11月	12月	1月	2月	3月
題材	年賀状印刷	年賀状印刷	学校文集の印刷 メモづくり	学校文集の印刷製本、身分証明書づくり、名刺印刷	挨拶状の印刷

⑥ 個人事例

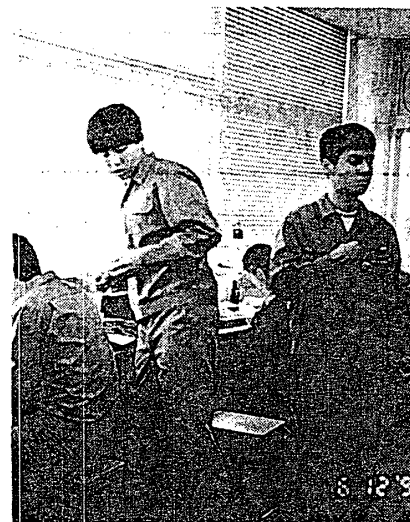
氏名	B男（1年男子）
主たる障害	自閉的傾向
作業分担	活字の拾い、返し
初めの様子	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷工程を比較的速く理解した。 ・箱の持ち方が悪く、度々活字を倒したり、落したりしていた。 ・分からない漢字があっても、自分で調べようとせずすぐに尋ねたり、逆に長い間自分一人で考えていて作業能率があがらなかった。 ・活字箱の前の通路で正座をして活字の拾い、返しをするために、他の生徒の作業の妨げになることが多かった。 ・友だちの言動に対し、自分に関係がないことでもすぐに口出しをしたり、上級生に対する言葉づかいも悪かった。

年賀状印刷 でのねらい 様 子	<ul style="list-style-type: none"> ・質問をしたりするタイミングについて考えさせ、作業の効率化を図る。 ・他の生徒に迷惑がかかる作業態度（姿勢、声の大きさ）の改善を図る。 ・質問に関しては、ある程度自分で考えてみて分からなかったら質問をするようになりはじめ、以前と比べると返しの作業時間がかなり短縮されたが、時々よそ見をしていたり、作業と関係のないことをしていることがある。 ・正座をして活字を探すことに関しては殆ど改善されておらず、度々注意を受けている。 ・声の大きさもあまり改善されていないが、少しずつ声の大きさを意識し始めた様子が伺われる。
氏 名	K男（2年男子）
主たる障害 作業分担 初めの様子	<p>精神発達遅滞 涉外、活字の返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明を聞いて理解できなくても、「分かりません」と全く言えなかった。 ・作業内容が分かっているにもかかわらず、間違った作業を平気で続けていた。 ・漢字の部首やつくりが殆ど理解できず、裏文字が読めなかった。 ・自分の課題をすぐに忘れてしまい、従って課題を直そうとする態度がなかった。
年賀状印刷 でのねらい 様 子	<ul style="list-style-type: none"> ・校外に出て、多くの人たちと触れ合うことにより、相手とのやりとりに慣れさせると共に自信を持たせるようにする。 ・涉外も最初は緊張していたが、慣れるに従って声もよく出るようになり、自主的に話かけることも次第に出来るようになった。学校での学習場面でも少しずつ発言に自信が持てるようになってきている。

(5) 考察及び今後の課題

多様な障害を持つ6名の生徒と共に授業を重ねてきた結果、総じて言えることは、一つには作業中に質問をするタイミングを理解させること、自分で考えて行動させることが難しいということである。また、作業に見通しが持てるようになれば報告や質問もスムーズに出来るようになると思われるが、活版印刷の多くの工程の技能修得が未熟なうちはそれが難しいことも再認識出来た。自主性を損なわないようにするために指導者側が「待つ」姿勢を大切にし、生徒が自ら考え働きかけが出来るような条件を整えることが大切だと思われる。また、技能の向上が「作業態度の育成」「働く意欲の向上」「コミュニケーションの力の向上」等に大きく関わっていることが明確になったことから、今後とも各工程の技能向上を目指すことを中核に据えて、指導に取り組みたいと考える。

（池田）



作業の様子

〈農耕園芸コース〉

(1) 生徒の実態

1年3名、2年2名、3年1名、計6名で編成されている。染色体異常、てんかん、言語障害、場面緘黙と障害は多様であるが、全般的に障害は軽く、安定しているグループである。どの生徒も指示に素直に従い、作業にまじめに取り組んでいるものの、主体性に欠け指示待ちの傾向がみられる。

草取りなどで同じ姿勢を長時間続けることが苦痛で、すぐに泣いて逃げようとするB子や、骨格異常のため作業姿勢に配慮を要するA男がいる。また、報告や返事に関しても、自信がない、報告の仕方が分からない、口の開け方が悪い等の原因から大きい声がなかなか出せない課題を抱えている。

(2) ね ら い

- ① 主体的に作業に取り組もうとする意欲を育てる。
- ② 作業に関わる報告、質問、返事等のコミュニケーションの力を高める。
- ③ 自然と関わり、命あるものを育てることを通して、情緒の安定を図る。

(3) 指導方針と手だて

- ① 播種から収穫までの作業を繰り返すことにより、農耕作業全体の流れを理解させると共に、各時間毎の作業の流れをパターン化させ、作業に見通しを持たせ、主体的に作業に関わろうとする態度を育成する。

a. 学習の流れ

← 5 分 →	←————— 60 分 —————→	← 10 分 →	← 5 分 →
挨拶・準備	作 業	後 始 末	反省・挨拶

b. 年間指導計画

月	4	5	6	7	9	10
題材	・農地整備、温室整備・農園、温室の草取りと水やり ・春野菜の栽培 ・さつまいもの植えつけ、栽培 ・収穫 ・秋野菜の植えつけ ・収穫					
月	11	12	1	2	3	
題材	・農具舎、用具の整備 ・春野菜の播種、草取り、水やり ・秋野菜の栽培 ・収穫・農作物の加工、販売					

- ② 作業が終了したという報告をする回数を増やすことを意図し作業を細かく区切る場面を設定する。

遠く離れた所から報告させることにより、大きな声を出さざるをえない状況を意図してつくる。

- ③ 自然のすばらしさや、大切さを言い表す言葉を添えながら作業をすることに努め、命あるものを育てることの楽しさ、命の尊さに気付かせ、穏やかな気持ちで作業に取り組ませる。



草取りをするH男

(4) 実践例

氏名	初めの実態	手 だ て	最近の実態
A 男 (一年)	<ul style="list-style-type: none"> 作業服の着替えが遅く、作業の開始に遅れても平気でした。 くわの使い方がうまくできなくても、「教えて下さい」と言えない。 作業終了の報告や次の指示を質問することができない。 声をかけられることを期待し、声かけがあると張り切って作業に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 理由を必ず報告させ、いけないことだということを認識させた。 質問があるまで一切声かけをしなかった。 友だちが報告や質問をしている真似をすることでやり方を覚えさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業の開始時間を意識し、集合できるようになった。 くわの使い方のコツが分かり、自信をもって作業に取り組んでいる。 「終わりました」「次は何をしたらいいでしょうか」と言えるようになった。 作業の手順が分かり、積極的に作業に取り組んでいる。
E 男 (一年)	<ul style="list-style-type: none"> 作業服をきちんと着て作業に取り組んだ。 挨拶、返事、報告の声が小さくて聞こえにくい。 作業態度には特に問題がなかったが指示待ちの姿勢が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、返事、報告が聞こえない時には、必ず聞こえるまで言い直しをさせた。 作業の流れをパターン化し、次の作業の見通しを持たせた。 	<ul style="list-style-type: none"> 常時、大きい声で応答ができるまでは至っていないが、大きい声で応答しようという意識は育っている。 作業に見通しがもて、友だちと協力して積極的に作業に取り組んでいる。
B 子 (一年)	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く態度が悪く、集中して人の話が聞けなかった。 作業が途中でも「終わりました次は何をしたらいいですか」と言にくることが多かった。 作業が雑であり、注意を受けるとすぐに泣いて逃げようとした。 しゃがむ姿勢が苦手で、すぐに立ち上がり、作業もなかなか進まないことが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に作業を指示し聞いていないと作業ができない場面を設定した。 必ず作業の確認をして、最後まで作業をさせた。 体重のかけ方等のしゃがむ姿勢の要領を教え、練習させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 真面目に集中して話が聞けるようになったが気が緩むと態度もくずれる。 雑な作業をすることや、泣いてごまかす態度は、改善されていない。 指導者の目が届かないと、すぐに立ち上がろうとする。
J 男 (二年)	<p>(一学期は印刷コースに所属しており、農耕園芸コースには2学期から参加している。)</p> <ul style="list-style-type: none"> 決まりも守れ、作業にも見通しが 	<ul style="list-style-type: none"> 農園作業の体験が豊富なことを認め、他の生徒の範とする場面を意図して設定し、自信を 	<ul style="list-style-type: none"> 自信を持ち、時には友だちに指示をしながら積極的に作業に取り組んでいる。 「～ですか」「～してもいいで

	<p>持てるが、指示待ちの傾向がみられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 返事、報告、質問をしようとする意欲はあるが、実際には何を言っているのか分からないことが多かった。 	<p>持たせた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「～です」の「で」の部分が抜けることが多いことを常に指摘し言い直しをさせた。 	<p>すか」の「で」が抜けることはなかなか改善されないが、大きい声でゆっくり言った時は、言っていることが良く理解できた。</p>
<p>H 男 (二年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作業には真面目に取り組んだ。 挨拶、返事はきちんとするが小さい声で聞き取りにくい。 報告の仕方が分からない時にはもじもじして下をむき、態度がはっきりしないことが多かった。 指示待ちの態度が顕著で、自主的に行動する場面はまったく見られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 農園の端に立った指導者や、友だちに返事をする場面を意図的に設定し、大きな声を出さざるを得ない状況を作った。 報告の仕方をパターン化させ、言い方を習得させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 息を吸ってから声を出すようになり、少しずつ大きな声が出るようになった。 作業に見通しを持って、自信ができて下をむくことが少なくなった。 報告が、はっきりと言えるようになったが、パターン以外の言い方はまだ難しい。
<p>し 子 (三年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分のペースで作業をするため指示された時間内に作業が終わらないことが多かった。 場面緘黙のため、音の表出は無く、動作で報告をしていたが、細かい報告については理解できないことが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を意識させるため、声かけの回数を多くした。 必ず相手の顔の前でゆっくりと大きな口を開けて言わせた。 	<ul style="list-style-type: none"> 声かけがあると急いですが、時間内にやり遂げようとする意識は低い。 相手の体をつついて自分の方を向かせる自分勝手さが時々見られる。

(5) 考察及び今後の課題

自然を教材として、作業に見通しを持たせて主体的に学習に取り組ませることを第一のねらいとした試みであったが、今年度は長雨と低温による日照不足のため、播種から収穫までの流れが大きく乱れ、作業に見通しを持たせることが難しい面があった。しかし、土を耕し、苗を育て、収穫した経験は、生徒たちの心を豊かにし、汗して働くことの大切さを知る上で成果があった。働く場での返事、報告、質問などのコミュニケーションは、パターン化された内容であれば、殆どの生徒ができるようになったが、場に応じたコミュニケーションはまだできたとはいえない。農具の使い方が上手になる草取りが要領よくできる、作業目的が理解できる等の農耕園芸の技能や知識が向上した生徒は、自信を持って返事、質問、報告ができる傾向があることが分かった。このことから技能や知識の向上を目指し、作業に自信を持って取り組ませることが、よりコミュニケーションの力を向上させることにつながると言える。単に応答の練習をさせるのではなく、技能や知識を向上させる学習の取り組みの中で、コミュニケーションの力を育てることが今後の課題である。

(小杉)

〈陶芸コースの実践〉

(1) 生徒の実態

陶芸コースは、1年生1名、2年生2名、3年生1名の計5名で編成されている。そのうちある程度の見通しを持って活動でき、リーダーシップがとれそうな生徒は1名で、手指が未分化のため粘土の感触だけを楽しむ段階の生徒が1名いる。粘土を使って工夫しながら作品を作ることを好み、このコースに入ったことを喜んでいる生徒が多いが、自分の好きな物作りの段階にとどまっており、まだまだ製品作りの段階にまで至っていない。人前で話しをするのを恥ずかしがったり、気持ちを言葉として表したりすることができにくい生徒が多く、全般的に指導者への依頼心が強いため、指示待ちの傾向がみられる。

(2) ねらい

- ・働く意識や態度を育てる。
- ・自分なりにある程度の見通しを持って根気強く取り組む姿勢を育てる。
- ・挨拶、報告などの必要なことを表現する力を養う。

(3) 指導の方針と手だて

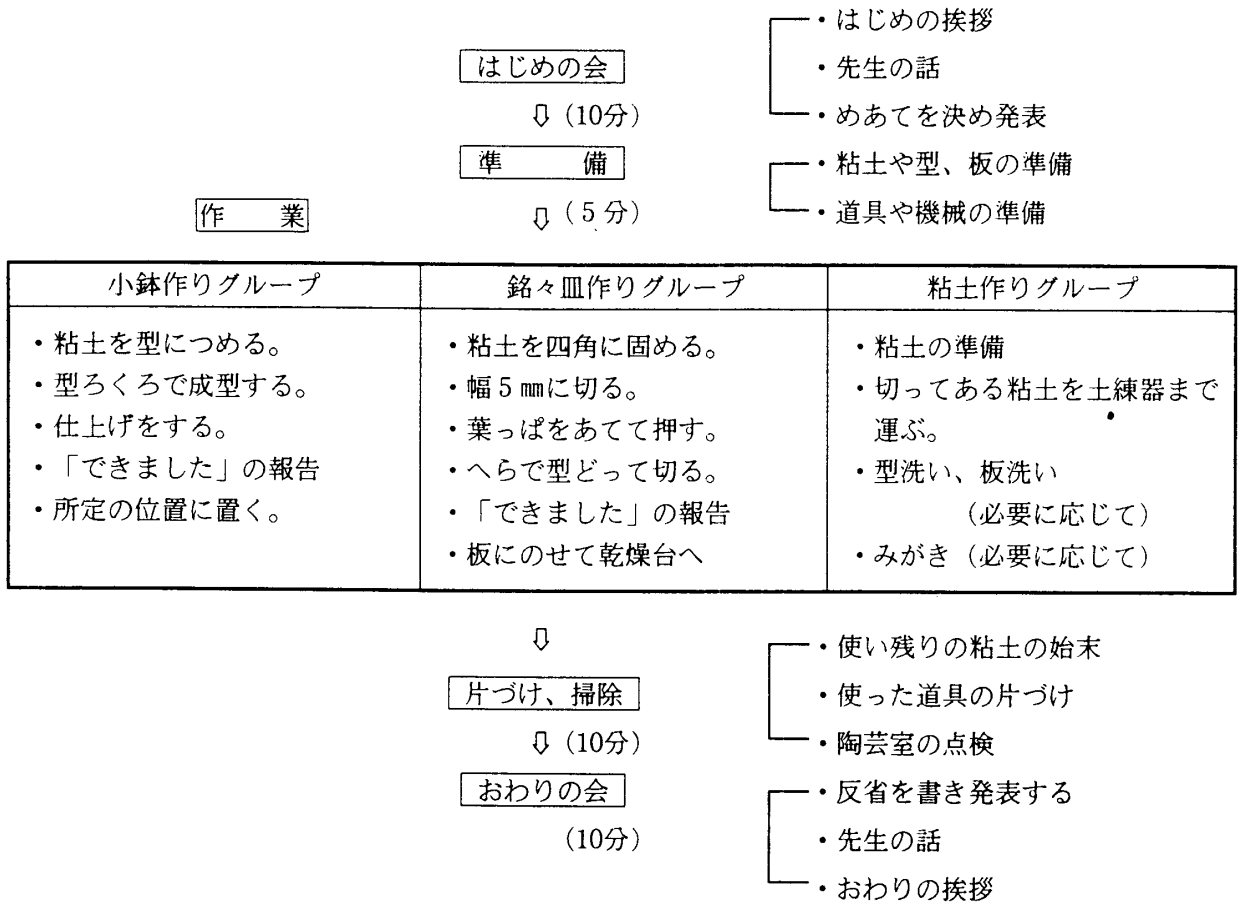
陶芸コースは製品の完成までにかかなり時間を要する。**粘土作り**→**品物作り**→**乾燥**→**ペーパーがけ**→**素焼き**→**釉薬かけ**→**本焼き**といった工程を経て、製品を完成できるのである。「学習発表会で小鉢を売ろう」「福祉展で銘々皿を売ろう」といった大きな目標を持たせて、ある程度の見通しを持って取り組ませながらも、毎時間ごとの学習で一人ひとりがめあてを決め、達成できるように努力することで、責任感や根気強さを養うことをめざした。

作業の技能を高めることが直接のねらいではないが、作業のやり方を理解し、作業遂行に必要な技能がある程度身につくまでは一人完結型の作業形態をとることとした。どの生徒にも小鉢と銘々皿作りの工程を経験させ、技能の習得を図った。6月に入り、生徒の得意とする工程と本人の希望を考慮して「小鉢作りグループ」と「銘々皿作りグループ」の2グループにわけ分業化した。なお手先の巧緻性に欠ける生徒は、指導者と一緒に粘土作りを担当することとした。「はじめの会」「おわりの会」では、その日の作業の目標を決めたり、反省をしたり、発表をするという時間を設け、司会進行は生徒の手に任せた。粘土は可塑性があり、何度でも再生できるので、失敗がわかりにくい。従って、その場でここが不良箇所であると生徒に分かるように示すには、一つの製品ができるごとに「できました」と報告をすることを約束ごととした。これは、報告や返事を自主的にするという機会を多く設けたいという意図も含んでいる。また「できました。次は何をしたらいいですか。」と指示を仰ぐ習慣も身につけさせたいと考え、分担の作業が終了したら必ず報告するようにさせた。このようにして、作業の遂行に最低限必要とされる表現の力を養いたいと考えた。



小鉢作り

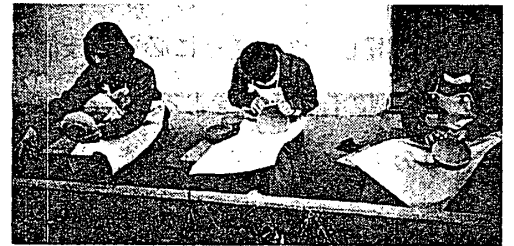
〈学習の流れ図〉



※ペーパーがけ、かま入れ、かま出し、釉薬かけは学期に1～2回程度全員で行う。

(4) 実践例

班の皆で話し合い、班の目標を「返事や報告を大きな声でする」「ていねいに仕事をする」「時間いっぱい仕事をする」の3つに決めた。各自の作業の評価は、はじめの会で各自がその日のめあてを決定し、終わりの会で自己評価し発表するという形をとった。初めはめあてを何にしてよい



ペーパーがけ

かわからず立ち往生する生徒が多かったが、評価用紙に記入することにより、発言しやすくなり発表の声も大きくなった。めあての達成は2学期に入ってからみられ出したが、達成が難しい生徒もいた。

	5月の様子	手だて	11月の様子
〇男(三年)	<ul style="list-style-type: none"> ・班長になったが「とうげい」のことばが覚えられず、指導者の顔をちらちら見て困った顔をしていた。 ・「作業にかかりましょう」「そうじにかかりましょう」という指示を、全て口移しで教えてもらいながら言い、声も小さかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言い始めの瞬間「と」と言って助言。 ・マニュアルを渡し、一字ずつ読みながら言わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「とうげいを始めます」とさっと言え出した。 ・5-7月は殆どマニュアルを拾い読みして指示を出していた。10月に入ってマニュアルなしでも大きな声で皆に声かけできるようになった。 ・型ろくろを使っての小鉢作りは、失敗も殆どなく報告もその都度できている。ペーパーかけなど、いつもと違う作業になると作業が遅くなる。

J子 (三年)	<ul style="list-style-type: none"> 粘土を土練器の所まで運ぶように指示しても、場所がわからず、指導者が一緒について動かないと違う場所に運んでしまう。 名前を呼ばれても返事をしない。 与えられた仕事にとりかかってもすぐやめてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事が継続してできない時は再度指示を出す。 作業をパターン化して継続しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「とってきましょう」の声かけで、台の上に置いてある粘土を土練器の所まで両手で持って運べるようになった。 ペーパーがけが、ある程度の時間続けて行えた。 型洗いや板洗いはすぐやめてしまい続かない。 名前を呼ばれても「はい」と一度で返事ができない。注意されるとすねて動かなくなる。
H子 (二年)	<ul style="list-style-type: none"> 口ごもって話すので、尋ね直さないと何を言っているのかわからなかったり聞こえなかったりする。 指示されたり注意されたりすると直そうとする姿がみられる。 自信なさそうに指導者の顔をちらちらと見たりきょろきょろする。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声で言えた時、返事ができた時は認めて、それでよいということに納得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> かなり大きな声で「できました。次は何をしたらいいですか。」が言えるようになった。返事もはっきりと言うことができる。 はじめの会、おわりの会の司会が自信を持ってできるようになってきた。 失敗すると極端に声が小さくなったり、てれかくしに笑ってしまったりすることがある。
F子 (二年)	<ul style="list-style-type: none"> 指導者が指示するのを待つ姿勢が目立つ。自分に与えられた仕事ができても、じっと立ちつくして報告に来ない。作業にさっと取りかからず、すわって動かない。 いつも下ばかり向いていて、人の顔をまったく見ようとしない。 	<ul style="list-style-type: none"> できた時は必ず報告することを教える。 「次は何をしますか」という言い方を教える。 	<ul style="list-style-type: none"> 何をしてもよいかわからない時「しますか」と自分で尋ねることができた。 作業にかかりましょうの指示で、さっと手ぬぐいを水でぬらして持ってくることができた。 名前を呼ばれた時、まだ「ふん」と返事をすることがある。少しは首をあげて話を聞く場面もあるが、下を向いていて注意をうけることがある。
F男 (一年)	<ul style="list-style-type: none"> 話している相手を見ないで、常に目がきょろきょろ動く。 次の行動に移る時ぞろぞろ歩く。 ぼそぼそと話す。尋ね直しても声が大きくなる。自信がない。 与えられた作業がすんでも困った顔をして立ちつくしている。 	<ul style="list-style-type: none"> よい行動ができた時、大きな声で言えた時は認めて、自信を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた作業が終わった時、「できました。次は何をしたらいいですか。」と報告・質問ができるようになった。 かま入れ・かま出しの時、早くという声かけに応じて、小走りで板を取りに行くことができた。 いつもと違う作業内容を与えられると、急に自信がなくなり、行動が遅くなる。

(5) 考察及び今後の課題

生徒たちは学習の流れをつかみ、今自分はどの行動すればよいのが分かるようになった。その結果『大きな声で返事や報告ができるようになった。』『次は何をしますかと尋ねることができるようになった。』『早く動くことを意識づければ、さっと行動に移せるようになった。』といった成果がみられた。パターン化された学習の中では、ある程度自信を持って取り組めたり、コミュニケーションもスムーズにとれるようになってきた。しかし、工程によって作業内容や学習形態が変わると、切り換えがうまくいかないため、極端に自信をなくして声が小さくなってしまったり、

次は何をしてよいかわからず困っても質問できなかったりという姿が所々にみられる。また、めあての決め方も安易になりがちなので、自己評価を確実にし働く意識や態度づくりに努めたい。



報告をするF子